

【成功しようと決断する一年(1)】

聖書本文:ヨシヤ記1章 1-9節/暗唱聖句:ヨハネの福音書5章39節

説教者: 鄭南哲牧師



あけましておめでとうございます！今年もさらなる良いお年をお迎えてください。願わくは始まった2012年の間も愛する兄弟姉妹神の家族の皆様上にさらなる神様の豊かな御恵みと祝福が注がれ、主のためにみなさんの働ける地境が広がりますように、偽りと悲しみが遠ざかるように切にお祈り申し上げます。アーメン！

アメリカ人ですが、とってとても独特な人生を過ごした一人の方の話を見せてください。彼は22歳に人生初めのビジネスに失敗します。次、23歳に地方の議会選挙に立候補しますが、落選します。24歳にふたたび、ビジネスに挑戦しますが、また失敗の繰り返しになります。34歳にもう一度地方の議会選挙に挑戦します。しかし、また失敗してしまいます。38歳に衆議院選挙に挑戦しますが、また落選します。43歳に再び、衆議院選挙に挑戦しますが、また落選です。46歳には上院議員選挙に挑戦しますが、また落選です。47歳になる年、副大統領選挙に挑戦しますが、落選です。49歳になる年にもう一度上院議員選挙に挑戦しますが、落選です。しかし、51歳になる年であった1860年彼はついにアメリカの大統領に当選されます。彼の名前はアブラハムリンカンです。彼の友達がリンカンに大統領の当選お祝いのあいさつをまわしながら、こう言いました。“あれほどたくさん失敗したのに、やっと成功されましたね。”するとリンカンは彼の独特の笑顔でこう答えたそうです。“失敗なんて？私に失敗したことはないです。成功は私に対する神様の計画です。いままでなめた苦杯は成功のために大切な経験の蓄積にすぎませんよ。”アブラハムリンカン！彼は自分の人生の成功を神様が計画されたと言う信仰で走ってきたのです。

今日聖書本文の箇所には成功に対する神様の約束があります。

7節です。“ただ強く、雄々しくあって、わたしのしもべモーセがあなたに命じたすべての律法を守り行なえ。これを離れて右にも左にもそれではならない。それは、あなたが行く所ではどこでも、あなたが栄えるためである。”

ここで“栄える”という単語は大体の英語の聖書では“you may prosper”(繁栄する)と訳されています。ある翻訳には“you may succeed”(成功する)とも訳されています。ですから“栄える”という単語の代わりに“成功”という単語を使っても間違っはしません。

もちろん、こんにちこの成功と言う単語はとってとても世俗的な意味で使われていることは事実です。しかし、ヨシヤ記に記されている栄える、もしくは成功と言う単語の意味をある旧約学者は“我々の人生において神様が計画された課題を成就すること”だと定義しました。愛するみなさん、みなさん一人一人への神様の御心があります。神様の御計画があります。聖書はその御心とご計画が神様の思われるどおりに成就されることを成功、もしくは栄えることだと教えています。願わくは今年2012年の間もみなさん一人一人に向う神様の御心と計画すべてがかなえられますように切にお祈り申し上げます。

今日の本文の主人公であるヨシヤには神様から与えられた課題がありました。イスラエルの民はエジプトから出て、荒野の陰しい旅を経てついにカナンの地を目の前においた状態に置かれています。そのイスラエルの民を導いてカナンの地に入り、彼らがその約束の地で定着できるように助けること、それがヨシヤに預けられた神様からの任務でした。

ある日、突然、イスラエル民族の偉大な指導者であったモーセが亡くなりました。突然、去ってしまったモーセの不在に新しく指導者となったヨシヤは霊的な経験も、経歴もない弱い指導者でした。彼にはモーセが持っていた強烈なカリスマもありませんでした。まだ、民たちには信頼されているわけでもありません。ですから、彼は心細く、恐れているしかありませんでした。しかし彼を用いるために召して下さった神様はヨシヤに人生の成功を約束されます。そして本文でその成功の秘密を彼に教えてくださいます。ですから、今日聖書の本文は“成功への招待状”だとも言えます。今日ヨシヤに与えられた御言葉はヨシヤだけに適用されるのではなくあらゆる時代を生きていくすべての神様の民にも同じく適用されるからです。今日の聖書本文が教えている人生の成功の秘密は次の二つです。

一つ目は、あなたの心を強く、雄々しくあれ。

我々が弱くなってくると恐れが我々を支配してきます。一旦、恐れが我々の人生や思いを押し寄せてくると、我々の意識世界は瞬間的に麻痺され無気力になります。正常に考えることも、判断することもできなくなります。そういうわけで、聖書は心を強くし、雄々しくあれ。と命じながら同時に恐れないようにと強調しています。おどろくことは聖書全体に恐れてはいけないという御言葉が何回くらい出てくるのか御存知ですか。正確に365回です。神様は1年365日日々、恐れないようにと教えて下さっているのではありませんか。

しかし、問題はどうやって恐れなくていられるのかです。

そして、どうすれば自分の心を強く、雄々しく守ることができるのかです。神様は単に恐れなくて、心を強くするようにと教えてくださるだけでなくその方法まで教えて下さっています。それは二つの態度を持つことです。

1.我々とともにおられる神様をつねに信頼しなければなりません。

その当時、イスラエルの英雄はモーセでした。神様はヨシヤにこう語っておられます。

“わたしは、モーセとともにいたようにあなたとともにいよう。”(5節)

神様は今、大いに用いられたモーセになったのはモーセの能力や、資質ではなく、神御自身が彼とともにおられたのであると語ってくださっています。その神様がいまからはヨシヤとともにおられるのだと約束してくださっているのです。その全知全能の神様が我々とともにおられるなら、何を恐れることがあるのでしょうか。しかし、それを信じないため恐れるのです。神様の民たちがこの地上で味わえる最高の特権があるなら、それは神様とともに過ごすことです。

愛する信仰の家族のみなさん！イエス様がどうしてこの地に来られたのでしょうか。新約の始めの福音書であるマタイの福音書1章で御使いがイエス様の誕生を予告します。そして生まれるイエス様のあだ名をのべつたえます。それは“インマヌエル”で、“神様は我々とともにおられる。”という意味です。神様のひとり子が人の子としてこの地に来られた理由は我々とともにおられるためでした。全能者なる神様は我々の人生において具体的にともにおられるために肉体の体をもってこの地に来られたのです。マタイの福音書の初めだけではな

く、最後の章である28章20節でイエス様は“見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。”と言われました。我々とともにおられるためにこの地に来られた神様はこの地を離れながらも言われました。世の終わりまで我々とともにおられるということです。神様がともにおられるという約束を信じる瞬間さらに我々は強くなることができます。

2.神様の約束を信頼しなければなりません。

神様はヨシュアにどんな約束をされましたか。地に対する約束をしてくださいました。

“あなたがたが足の裏で踏む所はことごとく、わたしがモーセに約束したとおり、あなたがたに与えている。あなたがたの領土は、この荒野とあのレバノンから、大河ユーフラテス、ヘテ人の全土および日の入るほうの大海に至るまでである。強くあれ、雄々しくあれ。わたしが彼らに与えるとその先祖たちに誓った地を、あなたは、この民に継がせなければならないからだ。”(3,4,6節)

この約束はつまり神様の御計画です。いまヨシュアはこの神様の計画を成就させるための道具として用いられようとしているのです。

神様が計画を立て、その計画を自分に約束としてくださったのなら、その約束はかならず成し遂げられるのではないのでしょうか。神様がご計画を立てそれを成就させたがるのであれば、そしてその成就の道具として私を召しておられるのなら私が行く道がどんなにけわしく、苦しみの道だとしても神様がその私を助けてくださらないはずはありません。あわれみ深い神様、恵みの神様が我々を助けてくださらないなんの理由はないはずです。

みなさんの人生において神様の確かな計画と目的があることを信じますか。そしてその計画が神様の御心になつた計画であるなら、神様は御心をなされるためにみなさんをかならず用いてくださることを信じて下さい。みなさんの持っている夢と計画が単なる自分の欲望に過ぎないことであるなら、我々はなんの確信も持つことができません。しかし、それが祈る中で、与えられた夢であるなら、御言葉をとおしてみなさんに与えられた確信であるなら、神様はその計画をなされるために、かならずみなさんを助けてくださると信じます。神様はその計画の成就の道具となられるみなさんをかならず助けてくださいます。みなさんの味方となってくださると信じます。みなさんを立ち上げらせてくださると信じます。時々、あきらめなくなり、疲れ果ててつらい時でも神様はかならずその障害物を乗り越え、勝利へ導いて下さることを信じて下さい。問題はこの神様の約束が成就されるまで、どれだけあきらめないで最後まで神様を信じ、たよりながら進んで行くかです。

人生の成功の秘密 二つ目に、神様の御言葉をつかんで生きることを勧められています。

本文の7,8節では“律法”と“律法の書”という単語が出ています。ここでの律法もしくは律法の書は十戒を指す狭い意味での律法ではなく神様の御言葉を意味する広い意味の律法です。イスラエルの民たちは神様の御言葉全体を言う時それを‘律法’もしくは‘トラ’とも言いました。ですから**律法の書を離れない**ということとは**分かりやすく言うと聖書から離れない**ということの意味です。栄える、成功の人生を望んでいるなら御言葉をつかんで生きなさいということです。この世には数多くの本が出版され、読まれています。たましいの救いを約束するたった一冊の本があります。あの永遠の世に対する望みを約束する一冊の本を御存知ですか。いまずぐ死んでも神様の御国に入れると言う確信を約束する一冊の本を御存知ですか。ねじれた人生と苦しみを覆っている人々に向って、苦しみからの解放と癒しと新しい力と希望を約束して下さっている一冊の本を御存知ですか。

今日の本文によると、その一冊の本が神様のトラ、つまり律法です。まことの成功(神様が言われる成功)を望んでいるなら、この律法の書を口から離さないようにと聖書は命じています。この神様の御言葉が我々の究極的目標と方向を示してください。その神様の御言葉をつかんで生きる方法は二つあります。

(1) 御言葉を黙想することです。

“この律法の書を、あなたの口から離さず、昼も夜もそれを口ずさまなければならない。”(8節)

ここで**口ずさむ**という単語は黙想とも言えますが、本来の意味は“**意図的に深く考えること**”です。黙想というのはうわべだけの単純な考えではありません。その御言葉を **深くじっくり、噛み砕いて考えること**です。この御言葉は自分の人生とどのように関連付けて適用させればいいのか、じっくり考えなさい。ということです。

(2) その御言葉のとおり生きることです。

“あなたに命じたすべての律法を守り行なえ。…そのうちにしるされているすべてのことを守り行なうためである。”(7,8節)

神様の御言葉を深く黙想し、自分の人生に照らしていただいた後は、その御言葉のとおり生きるようにと心がけてください。御言葉をそのまま守り、行なって見て下さい。従ってください。みなさんの生活に適用してください。そうするとみなさんの人生は栄え、成功するでしょう。

愛する信仰の家族のみなさん! 神様の御言葉を正しく黙想し、その御言葉のとおり生きるために、今年一年間、聖書を学び、徹底させるようにと心に決めてください。きちんと神様の御言葉を学ばなければなりません。ただの知識のためにする聖書の学びは最悪の聖書の学びです。自分の人生、生き方への適用や変化のためにする聖書の学びこそ最善の聖書の学びではないかと思えます。神様の御言葉に自分の姿と人生を照らして見て下さい。今のみなさんの姿を聖書をとおしてみるようにしてください。聖書をとおして、自分のどんなところが間違っているのか。自分にはどんなところが変えられ、回復されるべきなのか?と自問してみてください。神様の御言葉の前で、まじめになやみ、まことの回復と、変化を追い求める人々はかならず、そのように変えられると信じます。なぜなら、聖書をつかんで、もがく人々はかならず、聖書の主人公であるイエス様に会えるからです。聖書はそのような人々に聖書の言っている成功を約束していることを忘れないでください。

“あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思うので、聖書を調べています。その聖書が、わたしについて証言しているのです。”(ヨハネ5:39)

メッセージを終らせます。愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰のみなさん!

聖書知識はすこしかなくても大丈夫です。しかし、聖書から離れないで、聖書をつかんで、御言葉による主の導きを日々いただくみなさんとなりますようお祈り申し上げます。主の導きを受けて生きる人生は成功した人生です。それこそが祝福です。

神様がともにおられる人生、この成功を握って、主からの祝福を味わう2012年になりますよう切にお祈り申し上げます。アーメン!